

炭鉄港

TAMTETSUKO in OTARU

〈本邦国策を北海道に観よ！〉

〈北の産業革命「炭鉄港」〉

空知の「石炭」を基軸に、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、これらを繋ぐ炭鉄鉄道によって展開された北海道近代化の物語『炭鉄港（たんでつこう）』。幌内の石炭の発見、そしてその積出港となった小樽港は明治日本の近代化の原動力となっていました。そのダイナミックな変化は、まさに「北の産業革命」と言えます。

明治維新後、資源開発と北方警備の観点から、国策として開拓が進められた北海道。莫大な国家財政による開拓計画が立てられ、西洋技術も積極的に導入されました。石炭が豊富に埋蔵していることが判明した空知では、明治12年 幌内炭鉱が開鉱。明治15年、手宮―幌内間が開通し、石炭輸送が開始されます。

明治30年代には北海道随一の港町と

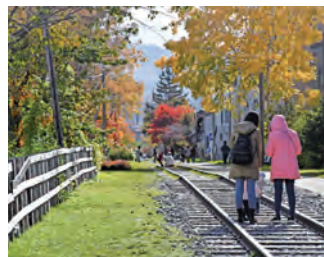
なっていた小樽は、第一次世界大戦を契機に、全国への北海道産品の積出港として更なる発展を遂げます。当時の繁栄の足跡は、港湾や鉄道施設、炭鉱経営も行う財閥系商社の支店社屋などとして現在も数多く残ります。しかし、他港との競争に敗れ、商業・金融機能も次々と札幌へ移転するなど、昭和40年代には衰退の兆しが見え始めます。高度経済成長へと日本がまい進する中、空知、室蘭と共に、『炭鉄港』は国策としての使命を終えていくのです。

時を経て、地域が歴史を見つめ直し、新たな価値を見出すまちづくりが、再び小樽から始まります。『炭鉄港』の歴史をひも解く時、「成長と衰退―そして新たなまちづくりへ」。未来への新しい価値観に出会う旅が始まります。

写真：小樽市総合博物館所蔵



旧手宮鉄道施設（国指定重要文化財）



手宮線跡及び附属施設



色内銀行街（旧三井物産小樽支店）



色内銀行街（旧三菱商事小樽支店）



小樽港北防波堤



北炭ローダー基礎



小樽中央市場



TAMTETSUKO in OTARU

港の物産を
空知へ届けた
ガンガン部隊



小樽

小樽中央市場

終戦後、生活物資は多くの行商の人々によって運ばれ、空知地区には小樽からの通称「ガンガン部隊」が鮮魚などをもたらした。中央市場はその主要な供給基地となった。

本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～

空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、これらを繋ぐ「鉄道」によって繰り広げられた北海道近代化の物語「炭鉄港」。開拓から製鉄までわずか30年という短期間で独自の進化を遂げた、そのダイナミックな変化は、まさに「北の産業革命」です。その歴史をひも解く時、「成長と衰退—そして新たなまちづくりへ—」、未来に向けた新しい価値観に出会う「知の旅」が始まります。



TAMTETSUKO in OTARU

北海道最古の鉄道跡は
訪れる人が憩う
オープンスペースへ



小樽

手宮線跡及び附属施設

明治13(1880)年に北海道最初の鉄道・官営幌内鉄道として部分開通。

市内中心部には、手宮線跡を利用した散策路が整備され、市民の憩いの場に姿を変えている。

本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～

空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、これらを繋ぐ「鉄道」によって繰り広げられた北海道近代化の物語「炭鉄港」。開拓から製鉄までわずか30年という短期間で独自の進化を遂げた、そのダイナミックな変化は、まさに「北の産業革命」です。その歴史をひも解く時、「成長と衰退—そして新たなまちづくりへ—、未来に向けた新しい価値観に出会う「知の旅」が始まります。



TAMTETSUKO in OTARU

大手商社、銀行の支店が連なるまち並み

それは商都小樽が躍動した時代の証し

小樽

色内銀行街（旧三井物産小樽支店及び 旧三菱商事小樽支店）

「北日本一の経済都市」と言われた当時の小樽を象徴する色内銀行街。
炭鉱経営も行う、三井、三菱といった財閥系商社も進出し、経済を牽引した。

本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～

空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、これらを繋ぐ「鉄道」によって繰り広げられた北海道近代化の物語「炭鉄港」。開拓から製鉄までわずか30年という短期間で独自の進化を遂げた、そのダイナミックな変化は、まさに「北の産業革命」です。その歴史をひも解く時、「成長と衰退—そして新たなまちづくりへ—、未来に向けた新しい価値観に出会う「知の旅」が始まります。



TAMTETSUKO in OTARU

現存する日本最古の機関車庫



小樽

旧手宮鉄道施設 (国指定重要文化財)

官営幌内鉄道時代から鉄道の中心として活躍した鉄道施設群。

機関車庫三号は、明治18(1885)年竣工の現存する我が国最古の機関車庫。

本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～

空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、これらを繋ぐ「鉄道」によって繰り広げられた北海道近代化の物語「炭鉄港」。開拓から製鉄までわずか30年という短期間で独自の進化を遂げた、そのダイナミックな変化は、まさに「北の産業革命」です。その歴史をひも解く時、「成長と衰退—そして新たなまちづくりへ—、未来に向けた新しい価値観に出会う「知の旅」が始まります。

